



年頭雑観 —— 技術士として年頭に思ったこと ——

(社)日本技術士会北海道支部
オホーツク技術士会 代表幹事
技術士（建設／総合技術監理部門）

大 島 俊 之

会員の皆様におかれては、新しい年をどのような
気分で迎えられたでしょうか。

今回の年末、年始は例年のような「どか雪」もな
く、久しぶりでゆっくりとした正月を過ごされたの
ではないかと思います。

最近の技術士を取り巻く環境を考えると、第3
期科学技術基本計画（平成18年度―平成22年度）
に基づき、我が国が「科学技術創造立国」を目指す
ための様々な重点政策課題が位置づけられており、
イノベーションの創出など技術士が果たすべき役割
は一層高まっているものと思われます。現代はイン
ターネットが便利な社会となり、このような国の関
連情報はかなり情報公開されていますので、これら
の情報を活かすための取り組みもかなり重要となっ
ております。特に大型プロジェクトを検討する場合
には、国の政策ロードマップと整合するようにする
ことが重要と考えており、北海道が我が国の中で果
たす役割を明確に位置づけることが必要です。2月
1日までパブリックコメントを募集していた「第7
期北海道総合開発計画」は国の政策に貢献するとと
もに、北海道が戦略的に果たす役割を明示していま
すが、私には総合開発計画と言いながら、建設に偏
りすぎていると思われます。

話は変わりますが、お正月に見たテレビ番組では
BBCのイラク特集とイギリス国民の討論会が印象

的でした。アメリカでも大統領選挙でイラク問題は
大きな争点になっていますが、イギリスではこれか
らもアメリカに追随してイラク駐留を継続すべき
か、引き上げてイラク国民に後をまかせるかで国論
が分かれているようでした。印象的だったのは発言
者が若い世代も老年世代もそれぞれ世界的な視野で
問題をとらえ、しっかりした意見を述べていたこと
でした。日本ではNNKがやらない限りできないよ
うな番組でしたが、NHKでは先日、国内問題として
の年金問題が取り上げられていたことが思い出され
ます。また知的資源、知財を武器にして国際的な貢
献を目指している日本としては、もっと科学技術と
世界戦略を議論する情報と機会を増やすことが必要
と思われました。

私の専門に関連しては、米国ミネアポリスでの落
橋事故が大きな事件でした。事故後に判明した事実
から、ミネソタ大学のしっかりした橋梁診断報告書
が公開されていました。しかしその中で大きな橋の
ため、維持修理に大きなお金が必要となるとも書か
れており、補修補強の遅れが事故に繋がったことも
判明しています。これは今後財政が厳しい中で、深
刻な維持管理時代を迎える我が国でも発生しそうな
事例ありで、「他山の石」としたいものです。今年も
皆様に取りまして良い年でありますよう、ご祈念申
し上げます。